

## 会 議 録

会議の名称	平成29年度第3回守谷市地域包括支援センター運営協議会		
開催日時	平成29年10月24日（火） 開会：午後1時30分　閉会：午後3時10分		
開催場所	守谷市役所 庁議室		
事務局（担当課）	保健福祉部 介護福祉課		
出席者	委員	中村（茂）会長，染谷会長代理，櫻井委員，小菅委員，南良委員，原委員，中茎委員，城賀本委員，戸田委員，吉田委員，中村（幸）委員 計11人	
	その他		
	事務局	堀保健福祉部長，高橋保健福祉部次長兼介護福祉課長，稲葉地域包括支援センター長，森山介護福祉課課長補佐，高橋係長，芳師渡係長，中村係長 計7人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2人
公開不可の場合はその理由			
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 委嘱状交付 4 会長代理の互選 5 協議事項 (1) 第7期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について 6 その他 (1) 平成28年度決算報告について 7 閉会		
確定年月日	会議録署名		
平成30年1月30日	会長 中村 茂美		

## 審 議 経 過

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 委嘱状交付

職能団体に属する者として選出された委員に対し委嘱状が交付された。

### 4 会長代理の互選

委員の互選により、会長代理に染谷委員が選任された。

### 5 協議事項

#### (1) 第7期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

計画の策定に当たっては、守谷市地域包括支援センター運営協議会からも意見をいただくこととなっている。

そのため、計画案の構成、基本理念、施策体系、基本目標ごとの重点取組事項等について説明を行い、委員には、特に日常生活圏域ごとの高齢者の現状と課題についての意見をお願いした。

委員からは、地域での支え合い、地域福祉活動計画との連携、運転免許返納を見据えた移動手段の確保といった今後の課題についての意見や、文章やグラフを工夫して市民に分かりやすい内容にして欲しいといった計画書についての提案をいただいた。

#### 【主な意見等】

会 長： 皆さまのご意見を伺いたいと思います。素案と比べると、だいぶ精査されたかと思います。個人的な意見としては、52頁に施策体系を整理していただいておりますが、基本目標の4つのうち、3と4はほとんどの市町村も同じですね。基本的に大きな差はありません。国の制度などで、ほとんどベースは同じです。逆に、1と2は市町村格差が非常に大きく出てくる部分です。この1と2を守谷市がどれだけ積極的に推し進めることができるかが、第7期計画の大きな課題になると思います。その中で、地域性というものが、市町村ではなくて守谷市内の地域で取組みをどう強化していくかということが第7期計画であると思っています。委員の皆さまは各地区の特長をよく御存じだと思いますので、今出てきている6地区のデータの中に、本当に特性が表されているかどうかですね。ざっくばらんなご意見をいただけたらと思います。

いくつか気になっている点を先に指摘させていただくと、13頁に死亡原因が出ていて、茨城県の保健福祉年報の平成24年までであって、守谷市の死亡順位ではありませんけれど、この中ではやはり肺炎が増えていて、

後期高齢者が増えれば増えるほど、誤嚥性肺炎により在宅で問題が起きて緊急搬送される方が増えています。そうすると、6地区の中では、大野地区あたりの口腔機能リスクが高いというのがありますが、口腔機能リスクが高い人は、誤嚥性肺炎をおこす可能性が高く、そういう中で、守谷市は非常勤で今までも歯科衛生士を雇用していて、ハイリスクに訪問していたと思います。この辺はせっかく持っている人材で、もうちょっと積極的に運用しても良いのではないのでしょうか。この中には歯科衛生士の効果が見えないですし、方向的につじつまが合わないというか、歯科衛生士を非常勤で持っている市はそんなに多い訳ではないため、せっかくいらっしゃるのであれば、その辺はきちっと対策しても良いのではないかと思います。

口腔衛生もそうですけれど、実際には、85歳を過ぎると、通常食を食べられる高齢者は圧倒的に減り始めて、やはり柔らかか目でないと食べられなかったりします。食形態が変わらない限りは、食事そのものが安全に摂れなくなってくるということがあって、やはりそこを総合的に支援するシステムがあってもいいなど。栄養士も常勤でいらっしゃいますね。そうすると、その辺がこの計画の中では筋道が見えなかった気がしています。

委員： 出前講座というのが市の方であります。シニアクラブなどに栄養士さんや歯科衛生士さんに来ていただきます。出前講座を利用するというのも一つの方法だと思います。無料ですし、すごく良いと思います。やはり先生の所に行って口腔ケアというのがなかなかできないのを、シニアクラブに来ていただいて、お話を聞くことはすごく良いと思います。

会長： それに加えてだと思いますが、今、女性の後期高齢者の栄養状態が年々悪化しているという厚生労働省のデータがあります。第6期計画のニーズ調査のデータでは、大野地区の女性の栄養状態が悪かったと思います。それも口腔的な問題も含めて関連していて、あとは間違った情報として、食べ過ぎてはいけない、太ってはいけないということを非常に意識されていて、たんぱく質量が極端に減ってしまっていて栄養状態が悪い。そして全身状態が悪いから色々なものを併発してくるということも、地区的にみると第6期計画の時は大野地区に見られたと思います。今回はどうなっているかわからないのですが、20頁の年齢別低栄養リスクの割合では大井沢が80歳代で突出していて、この後後期高齢者が増えていくに従って栄養状態ということも考えていかないと、健康余命が減っていくということに繋がるのかなと。その辺が全部一連に繋がると思うのですが、その辺をもっと明確に柱を持っていた方が良いのかなという気がします。出前講座もあるし、色々なことが実際に動いていて、それを表に出しておいた方が市民としても分かりやすいかなと。結局、口から栄養がちゃんと摂れなければ、健康余命はないですから。その辺は一本柱立てをしていただくと良いかなと思います。皆さんの方で6地区のこの辺がというのがあればお願いします。

委員： 37頁のシルバーリハビリ体操は一般的に言われている「ぱたか」のことでしょうか。松前台地区に空き家対策の一環として自治会館ができましたので、そちらの方に参加していますけれど、誤嚥性肺炎予防のための体操も時々指導を受けます。指導者の方たちに休憩の時に話しを聞きましたら、ボランティアなので、行きやすい所には指導者も集まるし、足の便の悪い所には集まらないということを耳にしたのですが、市からの補助金はないのでしょうか。

事務局： シルバーリハビリ体操を担っていただいている方々には委託料をお支払しています。補助金の場合は、3年後は自分たちで活動するというスタンスです。「ぱたか」は既に10年以上活動していただいています。効果がどのくらいあるかのデータはなかなかないのですが、会長がおっしゃったように、誤嚥性肺炎、その人に応じた身体の動きということで非常に介護予防に役立っているだろうということで、一昨年から委託事業にさせていただいて、初年度は23万円、2年目は46万円の委託料をお支払している状況です。ですから、活動を一年間するに当たって、教室に行き指導していただく経費をある程度見積もっていただいて、100%は出せませんが、委託事業として契約しているという状況です。

委員： わかりました。ありがとうございます。

委員： グラフ20、21について、見やすくはなっているのですが、市の中で6地区がどういう状態かを見る必要があるのではという疑問があります。後ろの方で6地区ごとに出ているので、6地区ごとのグラフもどこかに作った方が良いのかなと。自分の地区の特長を皆さん見ようと思いません。これだと全部見比べなくてはなりません。自分の地区の特長を見ようとした時に、年齢別は別としても一つの地区がまとまったグラフがあるのもっと見やすいかと思います。特に低い所については倍にするとか、100%で見るとしても、地区でまとまったグラフが欲しいと思います。追加できたらした方が良くと思います。資料関係で、市だけのデータなのか、国、県のデータなのか分からないので、データの出所をわかるように括弧書きで表示すると分かりやすいです。混乱しないようにパッと見てわかるようにしておいた方が良くと思います。私の個人的な資料の作り方の話になってしまうのですが、例えば6頁でグラフ1の説明をしています。他の所はこんなことがわかりますとかこんな傾向がありますとありますが、ここは書きっぱなしになっています。市としてはどう感じているのか、傾向が見えるのか書いた方が良くですね。人口は増えているが、一世帯当たりの人口はどうして減っているのかというコメントは、守谷市の特性として加えた方が良くですね。6地区に関しては、グラフがかなり狭い所での微増・微減なのでちょっと読み取りづらいですね。6地区の中でさらに狭いエリアで見ると分かるのかもしれませんが、難しいと感じました。地域に密着した方の意見を聞いてはいかがでしょう。

会 長： 6地区のデータがあまりありません。今ここに出てきているものに関してはそんなに差がないので、たまたま低栄養だけ大井沢が極端に突出しましたけれど、それ以外はどنگりの背比べですね。この数値から6地区の特長が分かれるとは思えません。それはもしかしたら自由記載なのかもしれないかもしれませんけれど。

31頁では、これから高齢者世帯が増加していき、移動手段ということが課題として出てきていますが、これはどの市町村も同じで特に茨城の場合は車がないとなかなか移動がしづらいということもあって、移動手段の確保が大きな課題になっていて、なおかつ免許の返納がかなり急ピッチでこれから進むとなると、本当に出られなくなります。守谷市の各論の書き方だと、移動手段がなくなったら、59頁の生活支援体制整備の生活支援サービスとして、訪問、通所、介護予防という今あるものしかここには出ていないのですが、これで本当に良いのかなと。高齢者が移動手段を無くした時に、高齢者は家の中にいて、サービスが家に来ればそれで良いのかと。そうすると高齢者は絶対に外に出られません。本当にそれで高齢者の生きがい感は求められるのでしょうか。サービスを家に届けるだけが行政のサービスではないのではないかと。高齢者と一緒に外に出るとか、一緒に買い物に行くとか、何か外に出られるサービスを吟味した方が良いのではと思います。モコバスの整備強化ももちろん書いてあるのですが、どうして高齢者がバスに乗れないのかと言ったら、私のこのエリアでの経験からすると、シルバーカーをバスに乗せられなかったので、バスの利用を諦めたという利用者さんがいました。意外と高齢者の方は、シルバーカーがあればある程度の距離を歩いて買い物にも行けて、バスにも乗れるのですが、バスにシルバーカーを乗せられません。そうすると迷惑だから外出しないということで、外に出なくなるということが現実的にあると思います。そういう面で、高齢者がもっと外に出やすくするためには、今あるサービスの何をブラッシュアップしたら良いのかを検討した方が良いかなと。免許返納が出た時に、足が無くて買い物に行けるのだろうかと思います。

委 員： いつまで乗れるのか、免許返納はどうしようかというのが話題になっています。町内では空き家対策というのでも出てきていますが、買い物や食事に行きたいけど、どうする？といった話が出たり、免許更新をどうしようかという話題が多いと思います。モコバスは時刻表がありますし、みんながお互いに仲間同士で乗せてあげるのがありますが、事故のことを考えます。タクシーは経済的なこともあります。いつまで乗れるかなという感じです。

会 長： もし車の免許を返納したら、買い物とかはどうしたいのでしょうか。

委 員： 住んでいるところがすごく便利なので、歩ける距離なのですけど。地域によってはちょっと遠いところもあって、野木崎にいたら買い物先はコンビニくらいしかありません。自分が住んでいるところは便利なので良い

のですが。課題はいつまで免許を持って運転するか、いつ返納するかですね。

委員： 自分のことですが、お祭りの日は元気だったのですが、翌日から全く動けなくなってしまいました。腰痛だから寝ていれば良いと思って、トイレは我慢して行こうと思い枕元に杖を置いて歩いていました。皆さんが来てやってくれるのですが、ここでお世話になったら甘えが出ると思ったので断りました。大変なのでゴミ捨てだけお願いしました。自分では腰だと思っていたのですが、腰ではありませんでした。寒暖の差で身体が冷えていたので、足から温めて治療しました。付き添いで食事を作るのももちろん良いのですが、一緒にやって慣らせることも大事だなと今回感じました。人に甘えるというのも人それぞれですが、私はボランティアをずっとしてきたので、なるべく甘えないようにしました。高齢者になっても甘えないで一緒にやることも大事だということがわかりました。

会長： 高齢者の方が甘えるというよりは、サービスを提供する側がやらせないという面もあります。一緒にやるというサービスは時間がかかるので、やってあげちゃうというところもあります。一番の根幹ですね。

委員： 一緒にできると本人も楽しくなります。

委員： 介護保険制度の欠陥です。時間でやっているのだから間に合わなくてやってあげちゃうという欠陥です。

会長： 見ていると一緒にやるというのが介護保険制度のサービスではなく、地域の支え合いでできると本当は良いですね。総合事業がどう動くかにもよって、そういった希望に添えるかどうかだと思います。

委員： 足という部分では、家族が見ると言っても本人は遠慮してしまい、生活圏が狭くなり、最後はサービスを利用することになります。各市町村でデマンドがかなり動いています。ああいったものに市としては動けないのでしょうか。しがらみが色々あるのでしょうか。あちこちで始まっています。その辺が動いていかないと、バス停まで10分の距離も高齢者の足にはきつくなっていきます。

事務局： ニーズ調査などの自由記載から、足の確保はとても大事と感じています。庁舎内の地域包括ケアシステム構築検討委員会では、企画課や足の確保を計画する都市計画課も交えて、ニーズ調査の結果を共有しました。今回の一番の目的は足の確保についての情報共有で、高齢者の声として現実的に出ているというところで問題を共有しました。モコバスの利用者は、市が市民全体で考えると減っています。どういった切り口でもっていくかです。今後、市民全員の足の確保ではなく、福祉という視点でバスをみるので、その時には一緒にということです。そういった情報共有を行うだけで進むかもしれないという状況です。デマンドも話は出でいて具体化していませんが、情報共有するだけで切り口は変わります。計画書に具体的に書くには至っていないので、このような記載内容になっています。

会 長： 車種にもよるのですが，各市でデマンドタクシーを動かしています。デマンドになると急に要支援1・2まで使えるようになります。要介護1になるとデマンドだと厳しくなりますが，要支援1・2であれば外来受診して買い物に行っている実績を持っています。モコバスだと要支援になると乗りにくくなります。

事務局： モコバスは乗り場まで近い所もありますが，遠い所もあります。

会 長： ハイエースクラスになると，ステップが上がれません。やはりデマンドなら乗用車でシートが高いものですね。シートが低い乗用車では立ち上がれません。シートが高めで，立ちやすい助手席や後部座席であれば，乗用車でデマンドを走らせてもらえれば最後まで使えますね。将来的には考えた方が良くと思います。

委 員： デマンドタクシーとすれ違いますが，それだけ動いているということですね。

委 員： モコバスは路線を時々見直してもらいたいと思います。スタートの頃からあまり変わっていないように思います。商工まつりは車も自転車もダメでモコバスを利用したのですが，確かにシルバーカーを乗せるような造りにはなっていません。モコバスはシルバーのために考えられていないということが痛切に分かりました。シルバーリハビリ体操も公民館で行っている教室もありますが，守谷市から補助金を出しているのは「ぱたか」ということでよろしいですね。

委 員： 53頁の施策体系について，これは縦にしか見えていないので，横のつながりが見えたものがあるともっと別の見方が出てくると思います。介護職は，高校生でやっても難しいです。小中学校くらいから教育をするという観点から，子どもヘルパーのような世界のものが入ってこないと，高齢者だけしか見えなくなってしまう。高齢者の計画という縦割りの計画なのではないのですが，そこがもうちょっとできないかと思えます。

委 員： 子どもヘルパーは4. 3年生から6年生までで，中学生になると部活などでできません。4年生から6年生までの3年間で，声掛けの仕方も違ってきます。

委 員： 高齢者のための計画なので，これでは動かないのではという感じがします。

委 員： 守谷市の国際交流協会では，放課後国際理解教育ということで各学校を訪問しているのですが，学童保育が今までと違って指定管理者制度になっているそうです。学校側の対応が今までと違ってきてしまっていて，色々と協力的ではなくなったということで，仕方ないことですが，福祉の方もそういったことになっているのではないのでしょうか。

委 員： 66頁に高齢者生きがい事業が書いてあるのですが，これがそこに該当するかは難しいのですが，施設の方の地域貢献事業として，低所得者層の食事の問題や学習の問題ということで，学習に対して放課後の勉強の場を

つくってはどうかという話が出ています。土浦市社会福祉協議会がかなり動いているらしいのですが、例えば特別養護老人ホームの地域交流ホールを開放して、そこに学校の先生の経験者や勉強を教えられる方に来てもらい、勉強会を開けば、高齢者の方は生きがいになるし、子どもたちは勉強になるので、そういったことをできないかなと考えています。施設側としてはどういうルートがあるか見えないので、そういったところでうまくマッチングする場があればと。低所得者層は、私たちには見えません。下手にやってしまうと、「あそこに行っている子は」となってしまう。勉強したい子はどうぞという形でできればいいのかなと思います。

委員： 子どもの貧困という言葉がいけないのかもしれない。色々な方面でやっているのですがその辺が難しいかなと思います。

委員： 勉強の場でも良いでしょうし、遊ぶ場でも良いでしょうし、育児ルームを作ったので、夏冬休みなど子供が遊びに来ます。冷暖房完備で何をしてもいいので、色々な遊びをしていますが、飽きてしまうと職員が相手をするしかありません。こういう時に高齢の方がいればと思います。施設としてはこれから地域貢献事業になっていくのですが、つなぎ方が難しいです。

委員： 子ども食堂などと騒がれていて、興味はあるのですが、低所得者層となるとどうしようかとボランティア同士で話しています。

会長： 地域で支え合いをするというのがこれからの大きな課題になると思います。介護保険制度もいつパンクするか分からない訳で、地域でどれくらい支えるかという時期がきています。49頁に重点取組として、生活支援体制整備事業というのがあって、どこの地域も混迷の中で試行錯誤していると思います。市民の方には事業計画を公開すると思いますが、生活支援体制整備事業の推進はこれだけでは何なのかよく分からないと思います。それは置いておいても、この書き方では守谷市はあまりにも行政の色が強すぎて、市民の色がありません。本来は、市民がどうやって支え合うか、だから例えば施設にこういう空間があって、こういうふうには高齢者と子どもをつなげたら地域で支えられるのではないかという、行政とは別の人たちが色々な人と組むことで地域を支え合おうというポリシーの中で動かすという大前提がある訳です。どうしてもかと言えば、行政にはお金がないし、社会保障制度にもそんなにお金を注ぎ込めないし、地域で何かをしてくださいというベースが生活支援体制整備事業の推進であると思います。そうすると、この書き方では社会福祉協議会と行政の協働で推進していきますとしてしまうと、結局市民ではないのか、というか、行政はやってくれるという感じにしかとれないと。本当に守谷はそれだけの余力があって、財政的にもやれるならば、それはそれですが。ただ本当にこれは大丈夫だろうかと思うのが、特に守谷市は特徴的ですが、人口は減らないのに、高齢者は増えていきます。他の市とは違います。高齢者はこの後ガクッと減って、人口が減少するから高齢化率が上がるだけであって、現実的に高齢者



はいないのですから。守谷市は逆です。高齢者人口がこのまま増えていくとなったときに、本当にこれで生活支援ができるのでしょうか。そうすると、第2層による協議体による話し合いの場を社会福祉協議会と行政の協働でと2つしかありません。もちろん第2層には市民も入っているのだらうと思いますが、もう少し市民という存在を行政も主軸に置いて考えていますということを出しても良いのではないかと。書き方ひとつですが、もしかして守谷市はこういうふうと考えていらっしゃるのではとちょっと不安になります。

委員： 49頁の地域ケア会議の推進ということで、6地区ごとにとあるのですが、今、6地区で地域福祉活動計画をやっています。今度は市長が組織をつくるということで、色々な組織が6地区に来ます。やはり、地域福祉計画と活動計画の中で色々やっついていかないと、地域に色々できてしまうとやりづらくて、地域福祉活動計画の中うまく入る方法があれば、その方がやりやすいかなと。実際に活動している中に介護も入れ、地域の元職、現職も巻き込んで、地域福祉活動計画と一緒にまとめた方がやりやすいと思います。6地区に分かれて活動して5年経つので、その辺が上手くできればいいのかなと思います。地区に色々な組織があってもやりづらいので、一つの団体でまとめて、地域を編むというのが一番必要です。

会長： 第6期計画で話題になっていたことですね。

事務局： イメージ的には、守谷市は地域福祉活動計画といった母体があるので、そこをベースに介護の部分も仲間入りして共有していきたいと思います。地域ケア会議も皆さんと情報共有しながら、地域福祉活動計画のネットワークでやらせていただきたいと考えています。地域に出向いて説明しに行くと、地区ごとに待ったがかかるところもあります。醸成された地域と若い地域があり、それぞれ違います。

会長： 第7期計画について、他にも色々意見はあると思いますが、運営協議会としては以上の内容を意見として述べさせていただきました。

## 6 その他

### (1) 平成28年度決算報告について

介護保険特別会計（地域支援事業）及び介護サービス事業特別会計について決算報告を行った。

### (2) 次回の会議日程について

平成30年1月30日（火）午後1時30分から開催することとなった。

## 7 閉会